



玉本なるみ

今年こそ、新しい市政の実現を!

コロナ感染の影響に続き、物価高騰で苦しむ市民の暮らしや命を守る市政が今こそ求められています。

今年も全力で市民の皆さんと力を合わせ頑張ります。

本会議にて代表質問しました

門川市長に対して、最後の代表質問でした。4期16年は、公共の福祉を後退させる市政でした。市職員は4100人も削減し、「民間ができることは民間に」と独立法人化や民間移管、民間委託の連続でした。民間を否定するわけではありません。しかし、公立が公的な役割を果たすことは重要です。元々少ない公立保育園は26園を14園に減らし、京都市立の看護短大を廃止し、各行政区にあった保健所をたった1か所に集約してしまい、コロナ感染拡大の折にはきめ細かな対応ができませんでした。

喜ばれている敬老乗車証も負担金を3倍以上にし、対象年齢も75歳までに引き上げようとしています。民間保育園は13億円も補助金がカットされ、ただでさえ、少ない給料がさらに減らされた保育園もありました。「責任は重いのに、

給料が安すぎて、踏ん張れない」と辞めていく保育士さんが次々出ています。国の保育制度が悪すぎるだけに、京都市が独自に行ってきました支援を後退させるのは問題です。補助金を戻すように求めました。



▲12月1日の代表質問

26000食の

巨大給食センターは問題!

長年、「小学校のようなあったかい中学校給食を」と運動や議会で論戦してきました。しかし、京都市教育委員会は自らが調査せず、コンサル会社に2,000万円で調査をさせました。結果として教育委員会は、なんとたった1か所の巨大給食センターを南区の塔南高校のグランド跡地に作るとしています。センター給食の場合、食育を進める要となる栄養教諭は、たった3人しか配置されないことがあります。



せっかく実施する全員制の給食なのに、子ども達の成長発達を保障する学校調理給食を実現すべきです。

答弁では、2時間以内の喫食が可能かなど、多くの重大な問題リスクに対して、まともな答弁はなく、コンサルの調査の結果を元に「大丈夫」という説明には説得力は全くありませんでした。



日本の異常な高学費が若者を苦しめている実態も代表質問で述べました。学生を支援するための奨学金なのに、その返済を苦に、自殺している方がおられることも明らかになりました。

ある子育てしながら頑張つておられる方は、「学生の時には助かっていたので、卒業後にこんなにも返済に苦しむとは思わなかつた」と話されました。

月額10万円と入学時に30万円、有利子枠の奨学金を借りて、43歳まで毎月2万6千円払わなくてはならない。利子分60万円を上乗せされ、総額にして570万円も返済することになるとのこと。

代表質問で、京都市独自の給付制奨学金制度の創設と返済に苦しむ世代への支援を求めました。

**高い学費と
奨学金制度の改善を!**

